

学生の受賞

理工学研究科応用化学専攻博士課程前期1年

菅井 夏穂さん (小松研究室)

第67回高分子学会年次大会「優秀ポスター賞」

※ポスター発表件数 998件

【受賞タイトル】

水中で自走するカタラーゼマイクロチューブの合成

経済学部 山崎教授ゼミ 中山 裕太さん

野村総合研究所、小論文コンテスト「奨励賞」

【論文名】

「地方の産業改革」(ソーシャルイノベーションをテーマにした観光産業改革—観光産業が障害者の雇用の「場」となることを目指して—)

※全国の大学生から応募のあった106本の論文の中から奨励賞に選出されました。

九州運輸振興センターの懸賞論文「優秀賞」

【論文名】

『離島地域のデザイン』奄美大島の地域政策としての観光政策を提案

FLP 地域・公共マネジメントプログラム山崎教授ゼミ

高橋 優果さん (商)

橋本 有理さん (総合政策)

公益財団法人みずほ学術振興財団「平成30年度第59回懸賞論文」経済部の学生対象において「佳作」

【論 題】

「地域金融のあり方を考える」

(2017年度「地方創生の課題、地方創生政策の手法を学ぶ」というテーマ)

FLP (ジャーナリズムプログラム) 松野良一ゼミ

<制作補>

大塚 脩平さん、福田 紗友里さん、
鈴木 里咲さん、平木場 大器さん、
和田 ユリ花さん、清水 千景さん、
平安山 絢可さん

<語り>

広瀬 愛奈恵さん

<プロデューサー>

馬田 翔永さん 神野 菜々さん

<ディレクター>

広瀬 愛奈恵さん

「東京ビデオフェスティバル2018」グランプリ「ビデオ大賞」

(審査員：大林宜彦監督、高畑勲監督など)

※国内外から寄せられた130作品の中から、最優秀作品に選ばれました。

【受賞作品】

ドキュメンタリー『女学生と風船爆弾』

戦況が悪化した太平洋戦争末期、日本軍は最終兵器として「風船爆弾」の製造を開始。そして、その任務を負ったのがまだ10代の女学生たちでした。彼女たちは、インターネット時代に入り、自分たちが製造した兵器が米国土で母親と子どもたちを殺傷したことを知ります。「被害者であり、加害者である」という葛藤に苦しむ元女学生たち。資料と証言を掘り起こし、現在の彼女たちの活動を追い、そして、米国での取材を通して、「平和とは何か」について考えたドキュメンタリー作品です。

法学部通信教育課程 吉田 緑さん

刑事政策研究会 懸賞論文(読売新聞社共催)「優秀賞」

【論文題目】

「児童虐待予防としての親支援～「グレーゾーン」とされる母親のSOSを受け止めるために～」

※2018年1月18日(木)に法書会館で表彰式が行われました。

国際交流

駐日フランス大使を招いて法学部講演会を開催いたしました

2018年6月7日(木)、駐日フランス大使であるローラン・ピック氏を講師に迎えて、法学部講演会「激動する世界におけるフランス外交と日仏関係 "La diplomatie française et les relations franco-japonaises dans un monde en pleine mutation"」を開催いたしました。

今回の講演会は、ピック大使と本学法学部 目賀田周一郎教授 および西海真樹教授とのご縁で実現したもので、目賀田教授担当の「外交と国際法I」の授業内で開催されたものです。

講演会に先立ち、ピック大使は福原紀彦学長を表敬訪問され、星野智法学部長、目賀田教授をはじめ本学の教員と終始和やかな雰囲気でお話されました。講演会では、目賀田教授から大使をご紹介いただき、ピック大使からは学生向けに、まず現下の国際情勢におけるさまざまな不安定要因とその背景が地域・イシュー別に説明され、次いで、国境を越えてそれらの不安定要因の影響が広がり、ポピュリズムの台頭や見せかけの民主主義により既存の秩序が覆される恐れも生じているとの現状認識の下で、価値観や考え方を共有する日本とフランスは、いっそう協力して法と話し

合いに基づきこれらの課題に対応し行動していく必要があるとの見解が披露されました。

豊富な事例をふまえた講義に、法学部の学生はもとより、他学部の学生、教職員、一般の方も熱心に聞き入り、また、300名を超える出席者数からも、関心の高さが伺えるものとなりました。



講演される駐日フランス大使
ローラン・ピック氏